

年金資金運用基金 平成16年度 第1四半期運用状況

1. 資産全体の運用状況

平成16年度第1四半期の運用環境をみると、内外株式市場は、米国における長期金利の上昇、イラク情勢の悪化、原油価格の高騰等から一旦調整したものの、好調な経済指標や原油価格の騰勢一服を背景に上昇した。また、外国株式については、為替も円安に振れたことから、円ベースでの収益率は大幅なプラスとなった。

一方、内外債券市場は、好調な経済指標を背景に米国の利上げ観測が高まり、金利は上昇（債券価格は下落）した。ただし、外国債券については、為替が円安に振れたことから、円ベースの収益率はプラスとなった。

この結果、第1四半期の修正総合収益率（期間率、市場運用分）は、0.80%となった。

（参考1）修正総合収益率（期間率）

第1四半期（4～6月）	0.80%
-------------	-------

（注1）修正総合収益率 = (総合収益額) ÷ (運用元本平均残高 + 前期末評価損益・未収収益)
修正運用元本平均残高(4～6月): 49兆 364億円

（注2）総合収益額

上に述べた市場の状況から、第1四半期の総合収益額（市場運用分）は、3,900億円となった。

（参考2）時間加重収益率（期間率）

第1四半期（4～6月）	0.78%
-------------	-------

年金資金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要であるが、情報公開を徹底する観点から、四半期毎に運用状況の公表を行っている。

2. 各資産の運用状況

資産構成状況(平成16年6月末現在)
(単位:億円、%)

	時価総額
	構成比
国内債券	268,402 53.62%
国内株式	122,787 24.53%
外国債券	44,217 8.83%
外国株式	65,148 13.01%
短期資産	44 0.01%
合計	500,599 100.00%

財投債(簿価)	238,798 (時価総額 236,087)
---------	---------------------------

注1)上記の数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計の値と必ずしも合致しない。

注2)財投債(簿価)は償却原価法による簿価に未収収益を加えたもの。

各資産の収益率(市場運用分)の状況(平成16年4月~6月)
(期間率)

	時間加重収益率	ベンチマーク	超過収益率
国内債券	-0.98%	-0.98%	0.00%
国内株式	1.30%	0.96%	0.34%
外国債券	2.45%	2.39%	0.06%
外国株式	6.37%	6.54%	-0.17%
短期資産	0.00%	0.00%	0.00%

ベンチマーク収益率(市場平均収益率)との対比

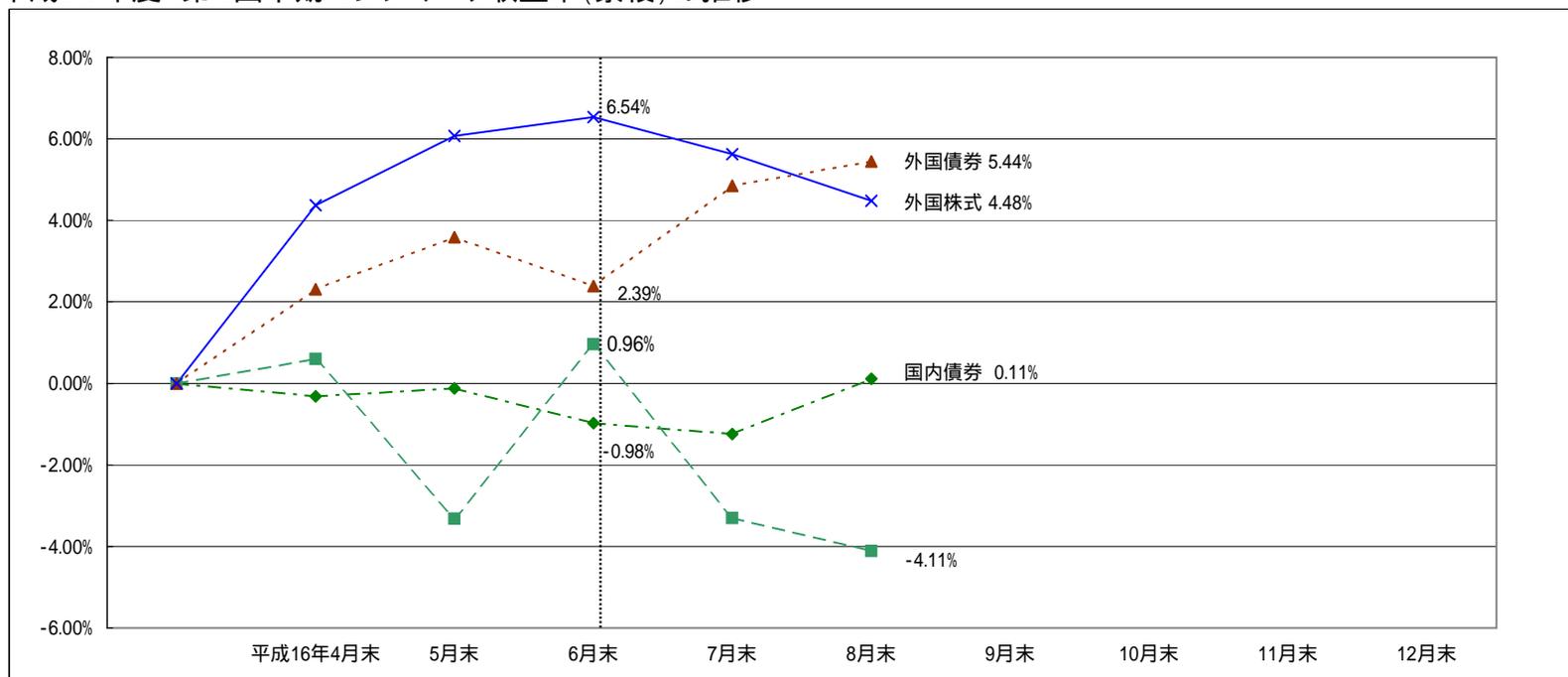
国内債券: ほぼベンチマーク並みの収益率となった。

国内株式: 情報・通信セクターのアンダーウェイト、輸送用機器セクターのオーバーウェイトがプラスに寄与した。

外国債券: ほぼベンチマーク並みの収益率となった。

外国株式: 金融引き締め観測から売られた金融関連セクターのオーバーウェイト、原油高から買われたエネルギー関連セクターのアンダーウェイトがマイナスに寄与した。

平成16年度 第1四半期ベンチマーク収益率(累積)の推移



【各市場の動き(4月～6月)】

国内債券： 国内の景況感の改善から金利は上昇した後、日銀の金融緩和政策維持の発表を受け横ばいで推移。6月以降、好調な経済指標や、米国の利上げ観測の高まりから金利は急上昇した。

国内株式： 景気回復期待の高まりから、買いが活発化し上昇基調。4月末より、米国、中国の利上げ観測や原油高懸念から一旦調整したものの、好調な経済指標を背景に値を戻す展開となった。

外国債券： 米国債券は、好調な経済指標を受け、早期利上げ観測の高まりから、金利は上昇。5月以降、原油価格の動向や、イラク情勢の悪化を背景に、景気動向や金利の上げ幅への思惑をにらみ、横ばいで推移した。ユーロ圏の債券市場も金利は緩やかに上昇した後、横ばいで推移した。しかしながら、為替は円安に振れたことから、円ベースの収益率はプラスとなった。

外国株式： 期初は、企業業績の回復期待等から上昇。5月に入り、早期利上げ観測の高まり、イラク情勢の悪化、原油高等から、一旦調整したものの、原油価格の騰勢が一服したことや好調な経済指標を背景に、値を戻す展開。また、為替も円安に振れたことから、円ベースの収益率は大幅なプラスとなった。

ベンチマーク騰落率

	平成16年4月～6月	平成16年4月～8月
国内債券 (NOMURA-BPI総合)	-0.98%	0.11%
国内株式 (TOPIX配当込)	0.96%	-4.11%
外国債券 (円ベース) (シテイループ世界国債インデックス)	2.39%	5.44%
外国株式 (円ベース) (MSCI-KOKUSAI)	6.54%	4.48%

運用環境

	平成16年3月末	平成16年6月末	平成16年8月末
国内債券 (新発10年国債利回り)	1.440%	1.775%	1.535%
国内株式 (日経225)	11,715.39円	11,858.87円	11,081.79円
国内株式 (TOPIX)	1,179.23ポイント	1,189.60ポイント	1,129.55ポイント
外国債券 (米国10年国債利回り)	3.83%	4.58%	4.11%
外国債券 (シテイループ世界国債インデックス)	254.41ポイント	260.48ポイント	268.26ポイント
外国株式 (NYダウ)	10,357.70ドル	10,435.48ドル	10,173.92ドル
外国株式 (MSCI-KOKUSAI)	973.517ポイント	1,037.156ポイント	1,017.113ポイント
為替 (円/ドル)	104.035円	109.115円	109.745円
為替 (円/ユーロ)	127.849円	132.760円	133.373円

四半期区分総合収益の状況

(平成13年度第1四半期～平成16年度第1四半期)

(単位: %、億円)

四半期区分		修正総合収益率(%)	総合収益額
13年度	4～6月	1.13%	2,943
	7～9月	-7.84%	-20,399
	10～12月	3.30%	8,203
	1～3月	1.02%	2,690
	年度計	-2.48%	-6,564
14年度	4～6月	-3.03%	-8,343
	7～9月	-4.08%	-11,768
	10～12月	-0.48%	-1,419
	1～3月	-1.39%	-4,347
	年度計	-8.46%	-25,877
15年度	4～6月	6.25%	20,855
	7～9月	0.94%	3,597
	10～12月	2.51%	10,469
	1～3月	2.72%	12,303
	年度計	12.48%	47,225
16年度	4～6月	0.80%	3,900

(注1) 総合収益額は、運用報酬等控除前の数値である。

(注2) 各四半期の修正総合収益率は、期間率である。

資金運用に関する専門用語の解説

時間加重収益率

時間加重収益率は、時価に基づく運用収益から運用機関が自ら決めることができない運用元本の流出入の影響を排除した収益率であり、その運用実績とベンチマーク収益率(市場平均収益率)との比較により、運用能力を評価することが可能。基金では、時間加重収益率の市場平均対比での超過収益率を測定し、運用行動の自己評価と、運用受託機関の定量評価に使用している。

修正総合収益率

運用成果を測定する尺度の1つ。

従来の簿価ベースでの運用元本に時価の概念を導入した収益率で、総合収益率よりさらに時価ベースにした収益率。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として広く普及している。

(計算式)

$$\begin{aligned} \text{修正総合収益率} = & \{ \text{売買損益} + \text{利息・配当金収入} + \text{未収収益増減(当期末未収収益 - 前期末未収収益)} \\ & + \text{評価損益増減(当期末評価損益 - 前期末評価損益)} \} / (\text{運用元本平均残高} + \text{前期末未収収益} \\ & + \text{前期末評価損益}) \end{aligned}$$

償却原価法

債券を額面金額よりも低い金額又は高い金額で取得した場合、差額が発生するが、これらの差額を償還期までに毎期、一定の方法で収益又は費用に加減する方法。

総合収益額

総合収益額は、実現収益額に加え資産の時価評価による評価損益を収益認識することにより、時価に基づく収益把握を行ったもの。

$$\begin{aligned} \text{総合収益額} &= \text{売買損益} + \text{利息・配当金収入} + \text{未収収益増減(当期末未収収益 - 前期末未収収益)} \\ &+ \text{評価損益増減(当期末評価損益 - 前期末評価損益)} \end{aligned}$$

ベンチマーク

運用成果を評価する際に、相対比較の対象となる基準指標。市場の動きを代表する指数を使用している。

* NOMURA - BPI総合

野村證券金融経済研究所が作成・発表している国内債券市場のベンチマーク。国内債券のベンチマークとしては代表的なものであり、基金もベンチマークとして採用。

* TOPIX(配当込み)

東証一部上場全銘柄の株価を株式数で加重平均して算出したもの。国内株式市場の代表的なベンチマークであり、基金もベンチマークとして採用。

* シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円貨換算、ヘッジなし)

シティグループ・グローバル・マーケッツ・インクが作成・発表している世界国債のベンチマーク。投資家が各国の市場で売買可能な国債の投資収益率を指数化したもの。国際債券投資の代表的なベンチマークのひとつ。基金も外国債券のベンチマークとして採用。

* MSCI - KOKUSAI(配当込み)

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル(MSCI)・KOKUSAI(円貨換算、配当込み、グロス)

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社が作成・発表している日本を除く先進国で構成された世界株指数。対象国の包括性、切り口の多様性等の点で国際株式投資のベンチマークとしては代表的な存在。基金も外国株式のベンチマークとして採用。

ベンチマーク収益率

ベンチマークの騰落率。いわゆる市場平均収益率。

投資収益率の絶対値の高低による評価は、投資環境の違いを反映せず、運用期間が異なる場合に横並びの比較が不可能である。しかし、投資環境を反映する基準指標の騰落率に対してどの程度収益率が上回ったか(超過収益率)を算出することにより、運用期間の異なるものの横並び比較が可能。